

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(国語) 科目：(現代文B) 対象：(第2学年 1組～7組)

科目担当者：(1組:浅井 印) (2組:浅井 印) (3組:浅井 印) (4組:佐藤 印) (5組:佐藤 印) (6組:佐藤 印) (7組:佐藤 印)

教科・科目の指導目標	さまざまな時代・ジャンルの文章を読むことにより、他の世界への理解を深め、関心を増すと共に、自らを見つめ、生きていくうえで必要な、思考力・表現力を養う。
------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>高校入試や前年度学力調査の分析から、本校の生徒は特に「文章理解」のジャンルで正答率が低く、問題文や設問の抽象度が上がると正答率が下降する傾向にある。</p> <p>このことを踏まえ、授業では評論文を文学的作品をバランスよく取り上げた結果、生徒の抽象的文章の読解力は少しずつ向上してきているが、一方で記述力にはまだ課題があり、引き続き記述力の向上を図る必要がある。</p> <p>また、「漢字」に関しては、前年度は朝学習で漢字テストを実施したほか、長期休業中に漢字検定の過去問を演習するなどして漢字力の向上を図ってきた。漢字検定の合格率が想定より低かったため、演習量とともに定着を意識した指導が必要であると思われる。</p>	<p>1 文章理解 文学的文章と評論的文章をバランス良く取り上げ、文学的文章の理解力、評論的文章の理解力共に高めていく。</p> <p>2 漢字 朝学習で漢字テストを実施するとともに、長期休業では引き続き漢字検定を見据えた問題演習を実施し、定期試験にも組み入れ、漢字力を高めていく。</p> <p>3 語彙力 語彙力を高めるために、授業内で評論用語集から小テストを実施していく。</p> <p>4 表現力の養成 授業内で記述形式の問題演習に類する課題を与え、読解した内容を「伝わるように記述する」力を育成する。</p>	<p>1 朝学習と授業内小テストの有効活用 年間を通して朝学習と授業内小テストを実施し、漢字力、語彙力の向上を図る。</p> <p>2 長期休業中の課題の実施 漢字検定に向けた課題、読解の課題など実践的な力の育成となる課題を課す。また、文庫本や新書を読む課題を課し、読書への関心を高めるとともに近代社会や人間について考察を深める姿勢を持たせる。</p> <p>3 夏期講習・補習の実施 学力不足の生徒に対しては基礎学力の定着を図る補習を実施し、成績上位者に対しては入試問題を意識した発展的な内容の講習を実施し応用力を養う。</p> <p>4 記述問題演習の積極的実施 授業内で記述形式の課題を与え、問いの読み取りと、それに正対した答え方を考えることを習慣化する。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			